



「笹川杯作文コンクール 2010」～日本語で応募～ 優秀賞作品

※日本語の原文を尊重し、一切手を加えておりません。

多彩な日本

東北師範大学 李佳



日本と日本人の生活は多彩である。なぜならば、日本の四季の変化がはっきりして、美しいからである。四つの季節にはそれぞれ美しく、独特な景色がある。そして、種類が多くさまざまな行事もある。

春になると、緑が芽生え、花をつけ、小さな生命が次々と誕生する。日本で春を代表する花は桜である。春を表す日本の古い言葉に、「桜時」というのがある。桜の花はもっとも南の沖縄県で咲き始める。それから、九州から北海道に向かって次々に開花する。目が覚めるような桜の花の満開時期には、公園などで花見が行われる。人々は賑やかに花を楽しみ、お酒を飲み、ご馳走を食べたり、歌ったり踊ったりして、春の一時を楽しく過ごす。花見とは桜の花を心行くまで眺めて春をしようするということである。

何もかも厚く燃え上がる季節は夏である。ぎらぎらと輝く太陽の下で草や木などよく茂っている。多くの町で浴衣を着て夜店に行き、金魚を掬ったり、海辺で夜景を見たりする。日本の風物詩の一つであるのはお盆である。都会に働きに行っている人々は郷里に帰り、お墓参りをして、先祖の霊を慰める。各地の町や村で多くの浴衣を着る人々が参加する盆踊りなどが行われる。

秋は取り入れの季節である。木の葉が黄色くなって、作物が実る。どこもかしこも収穫の喜びの雰囲気がいっぱいあふれている。もちろん、気候が穏やかな秋は行楽のシーズンである。秋を代表するものといえば、紅葉である。家族と一緒にドライブして、山野に紅葉を観光に行くことが多い。秋は空気が澄み、清々しい気持ちになり、心地よい。木の葉は赤や黄色に変わって、高い場所から眺めて、山の景色はまるで水彩画のようである。秋の紅葉狩りは春の花見とともに、自然の美しさを楽しむことである。

風に乗って、軽やかな雪がちらちら舞うように降る冬はとても美しいである。気候が寒いであるが、どこでもすっかり銀世界を現す。特に、北海道で冬になると、雪が厚く降って、白一色になる。冬にもっとも重要な祝日は元旦で、新年の門出を祝う日である。人は神社に参詣したり、友達の家を訪問して新年の挨拶を変わったり、会うことができない親類や友人などから年賀状をもらったり、独特でおいしい料理を食べたりして楽しむ。樹木を立て、神の降臨するための門松を門前に飾る。子供は羽根突きなどの遊びをやる。そして、子供たちにとって正月の大きな楽しみであるのは親からお年玉をもらうことである。

日本は四季の明らかな島国で、四季変化するのは著しくて、この特徴は日本人に生活に対して体現した季節に思っ鋭くてきめ細かい感銘力があらせる。だから、季節によって、多彩なことがたくさんある。私たちには四季の独特な趣を味わう必要があると思う。